

教 科	科 目	単位数	学年・クラス (類型)
理科	化学基礎	2	1 年生

1 使用教材

使用教科書	化学基礎 (啓林館)
副教材等	化学基礎の基本練習 (啓林館)

2 学習の目標

- 日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行う。
- 化学的に探究する能力と態度を身に付ける。
- 化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を身に付ける。

3 評価の観点・方法、規準

評価の観点		内 容	
関心・意欲・態度		日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心を持ち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。	
思考・判断・表現		物質とその変化の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	
観察・実験の技能		物質とその変化に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	
知識・理解		物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	
評価方法		定期考査で、知識・理解、思考・判断・表現、観察・実験の技能を、小テストなどで、知識・理解を、各課題や平素の授業などで、関心・意欲・態度、思考・判断・表現、観察・実験の技能を評価します。	
評価の基準	1 学期	中間	中間考査 100%
		期末	中間成績 30%、期末成績 50%、平常点 20%
	2 学期	中間	中間考査 100%
		期末	中間成績 30%、期末成績 50%、平常点 20%
	3 学期	学年末考査 80%、平常点 20%	
	学年	(1 学期成績 + 2 学期成績 + 3 学期成績) ÷ 3	

4 学習にあたっての助言

- 授業を通して化学的な見方や考え方ができるような目標を設定して、毎時間の授業に臨みましょう。
- プリントは板書をそのまま写すのではなく、自分で考えたこと、感じたことや説明などを整理して記入するようにしましょう。
- 計算力や思考力を身に付けるために、問題演習を中心に復習を行きましょう。

5. 学習計画

学期	月	学 習 内 容	学習のねらい	考查 範囲
1 学期	4	第1部 化学と人間生活 第1章 化学と私達の生活	生活の中でどのように化学が生かされているかを調べ、化学の学習を始める。	中間
	5	第2章 物質の状態 ○中間考査	物質の性質を調べるために、物質の分類や分離・精製法、物質の状態変化について理解する。	
	6	第2部 物質の構成 第1章 物質の構成粒子	原子の構造、とりわけ電子配置と原子の性質との関係を理解する。	期末
	7	第2章 化学結合 ○期末考査	原子の電子配置と関係が深い3種の化学結合について理解する。	
2 学期	8	第3部 物質の変化 第1章 物質と化学反応式	原子や分子の質量の相対質量による表し方、物質を粒子の数で表す「物質」とその単位モル、化学変化における物質の量的関係を表す方法などについて理解する。	中間
	9			
	10	○中間考査		
	11	第2章 酸と塩基	酸と塩基の性質や反応について理解する。また、酸と塩基による中和反応を利用して、食酢中の酢酸濃度を確かめる実験を行う。	期末
12	○期末考査			
3 学期	1	第3章 酸化還元反応	代表的な化学反応の1つである酸化還元反応の仕組みや利用例について理解する。 金属のイオン化傾向について理解する。その応用としての電池と電気分解について学習する。	学年末
	2			
	3	○学年末考査		

教 科	科 目	単位数	学年・クラス (類型)
理科	地学基礎	2	1 年生

1 使用教材

使用教科書	地学基礎 (実教出版)
副教材等	地学基礎演習ノート (実教出版)

2 学習の目標

1	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行う。
2	地学的に探究する能力と態度を身に付ける。
3	地学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を身に付ける。

3 評価の観点・方法、規準

評価の観点		内 容	
関心・意欲・態度		自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。	
思考・判断・表現		自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現できる。	
観察・実験の技能		観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	
知識・理解		自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	
評価方法		定期考査で、知識・理解、思考・判断・表現、観察・実験の技能を、小テストなどで、知識・理解を、各課題や平素の授業などで、関心・意欲・態度、思考・判断・表現、観察・実験の技能を評価します。	
評価の基準	1 学期	中間	中間考査 80%、平常点 20%
		期末	中間成績 30%、期末成績 50%、平常点 20%
	2 学期	中間	中間考査 80%、平常点 20%
		期末	中間成績 30%、期末成績 50%、平常点 20%
	3 学期	学年末考査 80%、平常点 20%	
学年	(1 学期成績 + 2 学期成績 + 3 学期成績) ÷ 3		

4 学習にあたっての助言

<ul style="list-style-type: none"> 授業を通して地学的な見方や考え方ができるような目標を設定して、毎時間の授業に臨みましょう。 プリントは板書をそのまま写すのではなく、自分で考えたこと、感じたことや説明などを整理して記入するようにしましょう。 興味あることを自分から進んで調査するなど、積極的に授業に参加しましょう。

5. 学習計画

学期	月	学 習 内 容	学習のねらい	考查 範囲	
1 学期	4	序章	地球の概観について学習し、その内部構造について理解する。 プレートと地球の活動について学習し、地震や火山活動、火成岩の形成について理解する。	中間	
	5	第1部 固体地球とその変動 第1章 地球			
		第2章 活動する地球			
		○中間考查			
1 学期	6	第2部 移り変わる地球 第1章 地球史の読み方	堆積岩とその形成や地層と地質構造について学習し、地球の歴史の組み立てについて理解する。	期末	
	7	○期末考查			
2 学期	8	第2章 地球と生命の進化	古生物の変遷と地球環境の変化について学習し、先カンブリア時代や顕生代について理解する。 大気圏について学び、気象の関係を理解する。	中間	
	9	第3部 大気と海洋 第1章 大気の種類			
	10	○中間考查			
	2 学期	11	第2章 太陽放射と大気・海水の運動	地球全体のエネルギー収支について学習し、大気の大循環や海水の循環について理解する。 日本で見られる冬から春、夏から秋への季節の気象について理解する。	期末
			第3章 日本で見られる季節の気象		
		12	○期末考查		
3 学期	1	第2章 恒星としての太陽の進化 第3章 銀河系と宇宙	恒星としての太陽の誕生と進化を理解する。 銀河系とまわりの銀河について学習し、宇宙の誕生と銀河の分布について理解する。	学年末	
	2	第5部 自然との共生	地球環境に及ぼす人間活動の影響について学び、日本の自然災害と防災について理解する。		
	3	○学年末考查			

教 科	科 目	単位数	学年・クラス (類型)
理科	生物基礎	2	2年生 (I型)

1 使用教材

使用教科書	生物基礎 (数研出版)
副教材等	生物基礎 まとめと問題 (数研出版)

2 学習の目標

1	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行う。
2	生物学的に探究する能力と態度を身に付ける。
3	生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を身に付ける。

3 評価の観点・方法、規準

評価の観点		内 容	
関心・意欲・態度		自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。	
思考・判断・表現		自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現できる。	
観察実験の技能		観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	
知識・理解		自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	
評価方法		定期考査で、知識・理解、思考・判断・表現、観察・実験の技能を、小テストなどで、知識・理解を、各課題や平素の授業などで、関心・意欲・態度、思考・判断・表現、観察・実験の技能を評価します。	
評価の基準	1 学期	中間	中間考査 80%、平常点 20%
		期末	中間成績 30%、期末成績 50%、平常点 20%
	2 学期	中間	中間考査 80%、平常点 20%
		期末	中間成績 30%、期末成績 50%、平常点 20%
	3 学期	学年末考査 80%、平常点 20%	
学年	(1 学期成績 + 2 学期成績 + 3 学期成績) ÷ 3		

4 学習にあたっての助言

<ul style="list-style-type: none"> 授業を通して生物学的な見方や考え方ができるような目標を設定して、毎時間の授業に臨みましょう。 プリントは板書をそのまま写すのではなく、自分で考えたこと、感じたことや説明などを整理して記入するようにしましょう。 興味あることを自分から進んで調査するなど、積極的に授業に参加しましょう。

5. 学習計画

学期	月	学 習 内 容	学習のねらい	考查 範囲
1 学期	4	序章	生物基礎で学習する内容の概要を把握するとともに、探究活動は何かについて理解する。	中間
	5	第1編 生物と遺伝子 第1章 生物の特徴 ○中間考査		
	6	第2章 遺伝子とそのはたらき	遺伝子の本体であるDNAについて、構造及び遺伝情報はその塩基配列にあることを理解する。	期末
	7	○期末考査		
2 学期	8	第2編 生物の体内環境の維持 第3章 生物の体内環境	体内環境がどのようにしてほぼ一定に保たれているのか、また体内ではどのような仕組みがはたらき、どのように調節が行われているのかを理解する。	中間
	9			
	10	○中間考査	植生について、その構造や、遷移とそのしくみについて理解する。	期末
	11	第3編 生物の多様性と生態系 第4章 植物の多様性と分布 ○期末考査		
12				
3 学期	1	第5章 生態系とその保全	生態系の成り立ち、生態系における物質循環とエネルギーの流れについて学習し、自然環境を保全することが大切であることを理解する。	学 年 末
2	○学年末考査			
3				

教 科	科 目	単位数	学年・クラス (類型)
理科	生物基礎	2	2年生 (Ⅱ型文系)

1 使用教材

使用教科書	生物基礎 (数研出版)
副教材等	リードα 生物基礎 (数研出版)

2 学習の目標

1	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行う。
2	生物学的に探究する能力と態度を身に付ける。
3	生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を身に付ける。

3 評価の観点・方法、規準

評価の観点		内 容	
関心・意欲・態度		自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。	
思考・判断・表現		自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現できる。	
観察実験の技能		観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	
知識・理解		自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	
評価方法		定期考査で、知識・理解、思考・判断・表現、観察・実験の技能を、小テストなどで、知識・理解を、各課題や平素の授業などで、関心・意欲・態度、思考・判断・表現、観察・実験の技能を評価します。	
評価の基準	1 学期	中間	中間考査 80%、平常点 20%
		期末	中間成績 50%、期末考査 40%、平常点 10%
	2 学期	中間	中間考査 80%、平常点 20%
		期末	中間成績 50%、期末考査 40%、平常点 10%
	3 学期	学年末考査 80%、平常点 20%	
学年	(1 学期成績 + 2 学期成績 + 3 学期成績) ÷ 3		

4 学習にあたっての助言

<ul style="list-style-type: none"> 授業を通して生物的な見方や考え方ができるような目標を設定して、毎時間の授業に臨みましょう。 ノートは板書をそのまま写すのではなく、自分で考えたこと、感じたことや説明などを整理して記入するようにしましょう。 興味あることを自分から進んで調査するなど、積極的に授業に参加しましょう。

5. 学習計画

学期	月	学 習 内 容	学習のねらい	考查 範囲
1 学期	4	序章	生物基礎で学習する内容の概要を把握するとともに、探究活動は何かについて理解する。 生物学を学習する上で重要な視点である生物の多様性と共通性について理解する。	中間
	5	第1編 生物と遺伝子 第1章 生物の特徴 ○中間考査		
	6	第2章 遺伝子とのはたらき ○期末考査	遺伝子の本体であるDNAについて、構造及び遺伝情報はその塩基配列にあることを理解する。	期末
	7			
2 学期	8	第2編 生物の体内環境の維持 第3章 生物の体内環境	体内環境がどのようにしてほぼ一定に保たれているのか、また体内ではどのような仕組みがはたらき、どのように調節が行われているのかを理解する。	中間
	9			
	10	○中間考査	植生について、その構造や、遷移とそのしくみについて理解する。	期末
	11	第3編 生物の多様性と生態系 第4章 植物の多様性と分布 ○期末考査		
12				
3 学期	1	第5章 生態系とその保全 ○学年末考査	生態系の成り立ち、生態系における物質循環とエネルギーの流れについて学習し、自然環境を保全することが大切であることを理解する。	学年末
	2			
	3			

教 科	科 目	単位数	学年・クラス (類型)
理科	物理基礎・物理	2・2	2年生Ⅱ型理科系

1 使用教材

使用教科書	物理基礎 (啓林館)・物理 (啓林館)
副教材等	セミナー物理基礎+物理 (数研出版)

2 学習の目標

1 日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行う。
2 物理学的に探究する能力と態度を身に付ける。
3 物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を身に付ける。

3 評価の観点・方法、規準

評価の観点		内 容	
関心・意欲・態度		自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。	
思考・判断・表現		自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現できる。	
観察実験の技能		観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	
知識・理解		自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	
評価方法		定期考査で、知識・理解、思考・判断・表現、観察・実験の技能を、小テストなどで、知識・理解を、各課題や平素の授業などで、関心・意欲・態度、思考・判断・表現、観察・実験の技能を評価します。	
評価の基準	1 学期	中間	中間考査 80%、平常点 20%
		期末	中間成績 50%、期末考査 40%、平常点 10%
	2 学期	中間	中間考査 80%、平常点 20%
		期末	中間成績 50%、期末考査 40%、平常点 10%
	3 学期	学年末考査 80%、平常点 20%	
学年	(1 学期成績 + 2 学期成績 + 3 学期成績) ÷ 3		

4 学習にあたっての助言

<ul style="list-style-type: none"> 授業を通して物理的な見方や考え方ができるような目標を設定して、毎時間の授業に臨みましょう。 ノートは板書をそのまま写すのではなく、自分で考えたこと、感じたことや説明などを整理して記入するようにしましょう。 計算力や思考力を身に付けるために、問題演習を中心に復習を行きましょう。

5. 学習計画

学期	月	学 習 内 容	学習のねらい	考查 範囲
1 学期	4 5	[物理基礎]序章 第1部 物体の運動とエネルギー 第1章 物体の運動 第2章 力と運動 ○中間考査	物理量の測定と表し方、分析の手法を理解する。 主に直線状を動く物体の運動を正確に表す方法について理解する。 いろいろな力の性質を学習するとともに、力がはたらいた場合の物体の運動の変化の様子を理解する。	中間
	6 7	第3章 仕事とエネルギー 第2部 物理現象とエネルギー 第1章 熱とエネルギー 第2章 波とエネルギー ○ 期末考査	仕事、力学的エネルギーについて学習し、力学的エネルギーが一定に保たれていることについて理解する。 熱の本質を学習し、エネルギーとの関係を理解する。 波とは何か、波はどのように伝わるかなどを学習し、波の性質を理解する。	期末
2 学期	8 9 10	第3章 電気とエネルギー 第4章 いろいろなエネルギーとその利用 終章 物理学が拓く世界 ○中間考査	静電気や電流など、電気に関する法則を学習し、さらに発電機や電磁波について理解する。 人類が利用することができる各種エネルギーの特性や利用方法について理解する。	中間
	11 12	[物理] 第1部 様々な運動 第1章 物体の運動とつり合い 第2章 運動量と力積 第3章 円運動と単振動 第4章 万有引力 第5章 気体分子の運動 ○期末考査	物体の運動と、力のつりあいについて理解する。 質量と速度の積である運動量と、力積の関係を理解する。 円運動の規則性と、その応用である単振動について理解する。 万有引力の性質を理解する。 気体分子の運動について、圧力・体積・温度などが関連した法則について理解する。	期末
3 学期	1 2 3	第2部 波動 第1章 波の性質 第2章 音の性質 第3章 光の性質 ○学年末考査	波の伝わり方や各法則を学ぶ。 音波の性質やドップラー効果の原理を理解する。 光の性質やレンズによる光の回折、干渉について理解する。	学年末

教 科	科 目	単位数	学年・クラス (類型)
理科	化学	2	2年生Ⅱ型理科系

1 使用教材

使用教科書	化学 (数研出版)
副教材等	セミナー化学基礎+化学 (第一学習社)

2 学習の目標

1	化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行う。
2	化学的に探究する能力と態度を身に付ける。
3	化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を身に付ける。

3 評価の観点・方法、規準

評価の観点		内 容	
関心・意欲・態度		日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心を持ち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。	
思考・判断・表現		物質とその変化の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	
観察・実験の技能		物質とその変化に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	
知識・理解		物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	
評価方法		定期考査で、知識・理解、思考・判断・表現、観察・実験の技能を、小テストなどで、知識・理解を、各課題や平素の授業などで、関心・意欲・態度、思考・判断・表現、観察・実験の技能を評価します。	
評価の基準	1 学期	中間	中間考査 100%
		期末	中間成績 30%、期末成績 50%、平常点 20%
	2 学期	中間	中間考査 100%
		期末	中間成績 30%、期末成績 50%、平常点 20%
	3 学期	学年末考査 80%、平常点 20%	
	学年	(1 学期成績 + 2 学期成績 + 3 学期成績) ÷ 3	

4 学習にあたっての助言

<ul style="list-style-type: none"> 授業を通して化学的な見方や考え方ができるような目標を設定して、毎時間の授業に臨みましょう。 プリントは板書をそのまま写すのではなく、自分で考えたこと、感じたことや説明などを整理して記入するようにしましょう。 計算力や思考力を身に付けるために、問題演習を中心に復習を行きましょう。

5. 学習計画

学期	月	学 習 内 容	学習のねらい	考查 範囲
1 学期	4	第1編 物質の状態 第1章 粒子の結合と結晶の 構造 第2章 物質の三態と状態変 化	物質を構成する個々の粒子がどのような仕組み で結合しているかを理解する。 三態変化が物質の構造や物質を構成する粒子とど のような関係があるかを理解する。	中間
	5	○中間考查		
	6	第3章 気体	気体の体積は圧力や温度によって大きく変化す ることを理解し、これを利用して分子量を求める などの計算方法を習得する。 薄い溶液では溶質粒子の種類に依存しない共通の 性質が表れることを理解する。	期末
	7	第4章 溶液 ○期末考查		
2 学期	8	第2編 物質の変化 第1章 化学反応とエネルギー	化学変化にともなう熱の出入りが意味することを エネルギーの観点から考える。 電気分解の仕組み、量的関係を理解する。	中間
	9	第2章 電池と電気分解 ○中間考查		
	11	【化学】 第3章 化学反応の速さとしく み	さまざまな化学反応について、反応の速さの違 いや、化学平衡の状態について、その反応の仕組 みとあわせて理解する。	期末
	12	○期末考查		
3 学期	1	第4章 化学平衡	可逆反応においては平衡状態が存在すること、 その状態は平衡定数で表されることを学習し、そ れらをもとに質量作用の法則を理解する。	学年 末
2	○学年末考查			
3				

教 科	科 目	単位数	学年・クラス (類型)
理科	生物探究	2	3年生 I 型

1 使用教材

使用教科書	生物基礎 (数研出版)
副教材等	

2 学習の目標

1	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行う。
2	生物学的に探究する能力と態度を身に付ける。
3	生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を身に付ける。

3 評価の観点・方法、規準

評価の観点		内 容	
関心・意欲・態度		自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。	
思考・判断・表現		自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現できる。	
観察・実験の技能		観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	
知識・理解		自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	
評価方法		定期考査で、知識・理解、思考・判断・表現、観察・実験の技能を、小テストなどで、知識・理解を、各課題や平素の授業などで、関心・意欲・態度、思考・判断・表現、観察・実験の技能を評価します。	
評価の基準	1 学期	中間	中間考査 80%、平常点 20%
		期末	中間成績 50%、期末考査 40%、平常点 10%
	2 学期	中間	中間考査 80%、平常点 20%
		期末	中間成績 50%、期末考査 40%、平常点 10%
	3 学期	学年末考査 80%、平常点 20%	
学年	(1 学期成績 + 2 学期成績 + 3 学期成績) ÷ 3		

4 学習にあたっての助言

<ul style="list-style-type: none"> 授業を通して、自然を総合的に捉え、考えることができるような目標を設定して、毎時間の授業に臨みましょう。 ノートは板書をそのまま写すのではなく、自分で考えたこと、感じたことや説明などを整理して記入するようにしましょう。 興味あることを自分から進んで調査するなど、積極的に授業に参加しましょう。

5. 学習計画

学期	月	学 習 内 容	学習のねらい	考查 範囲
1 学期	4	第1章 愛媛の自然 第3節 植物 第4節 動物	愛媛の自然をより詳しく学習することにより、身近な自然現象への理解を深め、地域の自然への探究心と動植物への保全の精神を身に付ける。	中間
	5	○中間考查		
	6	第2章 身の回りの科学 第1節 愛媛の産業と科学 第2節 愛媛の先駆者たち	物質及び科学技術の進歩が日常生活にどのように影響を及ぼしているかを理解し、より良い人間生活のための方法や考え方を探究する。 環境問題について学習することにより、環境に対する興味・関心を高め、環境保全の精神を身に付ける。	期末
	7	第3章 環境問題の学習 第1節 大気汚染 ○期末考查 第2節 水質汚染		
2 学期	8 9	第3節 土壌汚染 第4節 消えゆく動植物 第5節 環境問題を学習して	研究の進め方を確認することにより、自然現象の原因をより明確に説明できるようになる。	中間
	10	第4章 観察・実験と研究 第1節 研究の進め方 ○中間考查		
	11	第2節 実験器具の使い方と野外観察の仕方	観察・実験の方法を確認することにより、自然現象をより正確に記録し、表現することができるようになる。 これまでの学習から、どのようなテーマを探究したいか考え、テーマに応じて、文献の収集や研究・実験を行う。	期末
	12	探究活動 ○期末考查 探究活動		
3 学期	1	探究活動		学年末
	2 3	○ 学年末考查		

教 科	科 目	単位数	学年・クラス (類型)
理科	生物探究	3	3年生Ⅱ型文科系

1 使用教材

使用教科書	生物基礎 改訂版 (数研出版)
副教材等	

2 学習の目標

1	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行う。
2	生物学的に探究する能力と態度を身に付ける。
3	生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を身に付ける。

3 評価の観点・方法、規準

評価の観点		内 容	
関心・意欲・態度		自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。	
思考・判断・表現		自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現できる。	
観察・実験の技能		観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	
知識・理解		自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	
評価方法		定期考査で、知識・理解、思考・判断・表現、観察・実験の技能を、小テストなどで、知識・理解を、各課題や平素の授業などで、関心・意欲・態度、思考・判断・表現、観察・実験の技能を評価します。	
評価の基準	1 学期	中間	中間考査 80%、平常点 20%
		期末	中間成績 30%、期末成績 50%、平常点 20%
	2 学期	中間	中間考査 80%、平常点 20%
		期末	中間成績 30%、期末成績 50%、平常点 20%
	3 学期	学年末考査 80%、平常点 20%	
学年	(1 学期成績 + 2 学期成績 + 3 学期成績) ÷ 3		

4 学習にあたっての助言

<ul style="list-style-type: none"> 授業を通して、自然を総合的に捉え、考えることができるような目標を設定して、毎時間の授業に臨みましょう。 プリントは板書をそのまま写すのではなく、自分で考えたこと、感じたことや説明などを整理して記入するようにしましょう。 興味あることを自分から進んで調査するなど、積極的に授業に参加しましょう。

5. 学習計画

学期	月	学 習 内 容	学習のねらい	考查 範囲
1 学期	4 5	第1章 生物の特徴 第2章 遺伝子とのはたらき ○ 中間考査	2年時に学習したことの復習と、学習したことを用いて思考・判断・表現することができる問題を解くことができるようになる。	中間
	6 7	第3章 生物の体内環境 ○ 期末考査	2年時に学習したことの復習と、学習したことを用いて思考・判断・表現することができる問題が解けたり、人間の生体内で起こる身近な現象を解明したりすることができる。	期末
2 学期	8 9 10	第4章 植生の多様性と分布 第5章 生態系とその保全 ○ 中間考査	2年時に学習したことの復習と、学習したことを用いて思考・判断・表現することができる問題を解くことができるようになる。	中間
	11 12	探究活動（思考力問題） 探究活動（三崎の動植物） ○ 期末考査	暗記だけでは解けない、思考力を試す問題を班で協力して解くことができるようになる。 三崎の動植物を調べ、プレゼンを用いて魅力を伝えることができる。	期末
3 学期	1 2 3	探究活動 ○ 学年末考査		学年末

教 科	科 目	単位数	学年・クラス (類型)
理科	化学	3	3年生Ⅱ型理科系

1 使用教材

使用教科書	化学 (数研出版)
副教材等	セミナー化学基礎+化学 (第一学習社)

2 学習の目標

1	化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行う。
2	化学的に探究する能力と態度を身に付ける。
3	化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を身に付ける。

3 評価の観点・方法、規準

評価の観点		内 容	
関心・意欲・態度		様々な物質の構造や性質について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。	
思考・判断・表現		物質の構造や性質、反応について探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	
観察・実験の技能		物質の構造や性質、反応に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	
知識・理解		物質の構造や性質、反応について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	
評価方法		定期考査で、知識・理解、思考・判断、観察・実験の技能・表現を、課題テスト・小テストなどで、知識・理解を、各課題や平素の授業などで、関心・意欲・態度、思考・判断、観察・実験の技能・表現を評価します。	
評価の基準	1 学期	中間	中間考査 100%
		期末	中間成績 50%、期末成績 50% (考査 70%、平常点 30%)
	2 学期	中間	中間考査 100%
		期末	中間成績 50%、期末成績 50% (考査 70%、平常点 30%)
	3 学期	学年末考査 70%、平常点 30%	
	学年	(1 学期成績 + 2 学期成績 + 3 学期成績) ÷ 3	

4 学習にあたっての助言

<ul style="list-style-type: none"> 授業を通して化学的な見方や考え方ができるよう、自分の学習目標を設定して努力しよう。 毎回の授業を大切にし、実験の仕方など、説明された内容に耳を傾け、メモしておこう。また、実験や観察の実施後は必ず報告書を作成して提出しよう。 家庭学習は、教科書に目を通して予習し、概要を理解してから授業に臨むようにしよう。復習は問題演習を中心に行おう。 計算力が必要なので数多くの問題に当たり、実力をつけよう。

5. 学習計画

学期	月	学 習 内 容	学習のねらい	考查 範囲		
1 学期	4	第3編 無機物質 第1章 非金属元素	様々な無機物質について、その単体や化合物の性質を周期表と関連させて理解する。また、その反応や実験室・工業的スケールでの製法、生活の中での利用方法などを理解する。 金属単体の性質とともに、化合物の性質を学習する。	中間		
	5	第2章 金属元素 (I) ○中間考査				
	6	第3章 金属元素 (II)	遷移元素の特徴を理解し、鉄や銅、銀など身近な遷移元素の性質や反応、利用方法を理解する。また、金属イオンの分離方法についても理解する。	末 期		
	7	○期末考査				
2 学期	8	第4編 有機化合物 第1章 有機化合物の分類と分析	有機化合物の一般的な性質や構造を理解し、その特色を押さえる。有機化合物を体系的に分類するとともに、異性体や官能基も理解する。 元素分析により組成式・分子式・構造式を求める手順を習得する。	中間		
	9					
	10	第2章 脂肪族炭化水素	代表的な炭化水素であるアルカン・アルケン・アルキンやシクロアルカンの構造を理解し、これらの物理的・化学的性質および反応における特徴を構造と関連づけて理解する。			
		第3章 アルコールと関連化合物	アルコールとその異性体であるエーテルについて学習する。アルデヒドは還元性を重点的に整理する。アルデヒド、カルボン酸はアルコール誘導体として反応性を整理する。エステルの生成および加水分解は可逆反応として学ぶ。			
		第4章 芳香族化合物	芳香族化合物では芳香族炭化水素を中心に誘導体として分類する。			
		第5編 天然有機化合物 第1章 天然有機化合物 第2章 天然高分子化合物 ○中間考査	高分子化合物は人間の生活の様々なところで利用され、生物体の構成物質であり、生命活動に必要な物質であることを理解した上で、その特有の性質、分類、構造について理解する。 代表的な高分子化合物の中でも、天然有機化合物である糖・タンパク質・油脂の構造、分類、性質について理解する。			
	11	第6編 合成高分子化合物 第1章 高分子化合物の性質	衣服の天然物や合成品の分子構造や合成方法を学習し、染色して有用に利用する方法、洗浄により清浄にする方法や、その仕組みなどについて理解する。 身近な材料である合成樹脂・ゴム・金属・セラミックスについて、それらの組成や構造がその材料の特性とどう関連しているかを理解し、化学的な理解を深める。		期末	
	12	第2章 合成高分子化合物 ○期末考査				
	3 学期	1	○ 冬休みの課題 第6編 課題研究 第1章 課題研究の進め方 第2章 課題研究の題目		課題研究を進めるには何をどのような手順で進めるかを理解する。 課題研究とはどのようなものかを把握し、各自のテーマの進め方を再検討する。	学年 末
		2	○ 学年末考査			
3						

教 科	科 目	単位数	学年・クラス (類型)
理科	生物	3	3年生Ⅱ型理科系

1 使用教材

使用教科書	生物 (数研出版)
副教材等	リードα 生物基礎+生物 五訂版 (数研出版)

2 学習の目標

1 日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行う。
2 生物学的に探究する能力と態度を身に付ける。
3 生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を身に付ける。

3 評価の観点・方法、規準

評価の観点		内 容	
関心・意欲・態度		自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。	
思考・判断・表現		自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現できる。	
観察・実験の技能		観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	
知識・理解		自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	
評価方法		定期考査で、知識・理解、思考・判断・表現、観察・実験の技能を、小テストなどで、知識・理解を、各課題や平素の授業などで、関心・意欲・態度、思考・判断・表現、観察・実験の技能を評価します。	
評価の基準	1 学期	中間	中間考査 80%、平常点 20%
		期末	中間成績 50%、期末考査 40%、平常点 10%
	2 学期	中間	中間考査 80%、平常点 20%
		期末	中間成績 50%、期末考査 40%、平常点 10%
	3 学期	学年末考査 80%、平常点 20%	
学年	(1 学期成績 + 2 学期成績 + 3 学期成績) ÷ 3		

4 学習にあたっての助言

<ul style="list-style-type: none"> 授業を通して生物学的な見方や考え方ができるような目標を設定して、毎時間の授業に臨みましょう。 ノートは板書をそのまま写すのではなく、自分で考えたこと、感じたことや説明などを整理して記入するようにしましょう。 興味あることを自分から進んで調査するなど、積極的に授業に参加しましょう。

5. 学習計画

学期	月	学 習 内 容	学習のねらい	考查 範囲
1 学期	4	第1編 生命現象と物質 第1章 細胞と分子	細胞活動においてさまざまなタンパク質が 様々な生命活動を支えていることを理解する。 呼吸・光合成の詳細なしくみを理解する。	中間
	5	第2章 代謝 ○中間考査		
	6	第3章 遺伝情報の発現	DNAの構造・複製・タンパク質合成について、そ の詳細な仕組みを理解する。 器官分化における遺伝子のはたらきについて理 解する。	期末
	7	第2編 生殖と発生 第4章 生殖と発生 ○期末考査		
2 学期	8	第3編 生物の環境応答	受容器で受け取られた刺激が、神経系を介し て、効果器へと至る経路を理解する。 植物の環境応答について理解する。	中間
	9	第5章 動物の反応と行動 第6章 植物の環境応答 ○中間考査		
	10		個体群や生物群集についてそれぞれの特徴を理 解する。 生命の起源及び生物の変遷を理解する。	期末
	11	第4編 生態と環境 第7章 生物群集と生態系 第5編 生物の進化と系統 第8章 生命の起源と進化 ○期末考査		
12				
3 学期	1	第9章 生物の系統 ○学年末考査	多様な生物が系統によって分類できることを理 解する。	学年末
	2			
	3			